

資料 1

イベント広場整備に関する第 11 回推進委員会からの変更点について（案）

第 11 回推進委員会にて検討頂いた、導入機能のひとつであるイベント広場及び屋根付屋外広場施設について、次のように施設整備に関する変更点をまとめています。

第 11 回会議資料からの変更点について

(1) 変更点

- ・ 構造の変更
- ・ 面積の変更（有効高はほぼ同じで、2階建て相当の高さとなります）
- ・ 施設を有効活用するため、バーベキュー広場は背後の緑地帯（B緑地）にアウトドア体験スペースとして移設
- ・ 全天候型施設整備に伴い、B緑地との間の既設道路を有効活用し、バスの転回用及び車両を施設に横付けできるよう変更。バス停も併せて変更。

■施設概要の比較表

	屋根付屋外広場	全天候型施設
構造	広場を覆う大屋根	鉄骨造
面積	約 1,500 m ²	約 2,000 m ²
概算工事費	約 2 億円	約 4 億円

※概算事業費は第 11 回推進委員会時には積算中であつたため示していません

■施設配置図



第 11 回会議資料（屋根付屋外広場）



第 12 回会議資料（全天候型施設）

(2) 理由

- ・施設整備においては、整備費用に加え毎年の維持管理経費が必要となります。また、定期的な補修により施設を維持していかないといけません。特にランニングコストにおいては、屋根だけの場合にかかるメンテナンス費用や補修周期の短さからくる改修費用などを考慮すると、構築物の方が長期的には管理コストが安価に納まる可能性が高くなりました。
- ・活用面においては、屋根だけの場合、芦屋港の立地から、冬季の活用は北西の季節風により厳しく、年間を通じた利用（特に冬季の集客）に課題が生じるため、芦屋港活性化推進委員会の議論でも出されている冬季の集客を高めるためには、上屋リノベーションによる複合施設のみでなく、イベント使用を想定した構築物の方が望ましいとしました。
- ・施設整備費について精査したところ、テント張りの屋根だけの場合でも強風に耐えられる構造となるため 2 億円となります。構築物の場合、様々な工法がありますが、メンテナンス製や整備コストを考慮すると、鉄骨造が適当となり、積算すると 4 億円となりました。活用面や維持管理面を考慮すると、投資費用の差は金額以上に少ないと考えられます。